

参考資料5

耐震バックチェックに柏崎刈羽原子力発電所基礎版上の 観測記録を用いることについての対応案

1. 現状

- 1) 平成19年9月 事業者が自主的な対応として、観測記録680ガルに対して安全上重要な代表的機器は機能維持が確保されることを報告。
- 2) [REDACTED] から観測記録を耐震バックチェックの中間報告に反映すべきと指摘あり。
- 3) 安全委員会において、震源を特定せず策定する地震動として450ガルが十分な保守性を有するかどうか疑問とされている。

2. 対応案

- 1) 耐震バックチェックへの反映事項として、基礎版上に680ガルの観測地震動を想定し、Sクラスの施設の安全機能を確認する。
- 2) ただし、680ガルは、震源を特定せず策定する地震動Ssとして策定するものではないとする。680ガルは、残余のリスクをできる限り低減させる具体的な方策として、Sクラスの施設が保有することが望ましい耐力として位置付ける。
- 3) 耐震バックチェック中間報告には、平成19年9月に対象としたSクラスの施設について、680ガルの詳細検討結果を報告させる。
- 4) 事業者は、残るSクラスの施設について、680ガルの検討を行い、バックチェックの最終報告に盛り込む。必要に応じ、速やかに補強対策を実施する。
- 5) なお、現在事業者に対して、680ガルに対する見通しを検討させているところ。
- 6) 現在審査中の案件については、残余のリスクをできる限り低減させる具体的な方策として、Sクラスが680ガルに対して安全機能を維持することを詳細設計段階で確認する旨、設置許可時に指示をする。

3. 問題点

再処理施設が、680ガルへの対応が可能かどうか。